

「こどものもの展」

2011.7.12(火) - 18(月・祝)

11:30-18:30(最終日は:17:00まで)

優しい手触りの手拭いや産衣

掌の宝物ガラスのオブジェ

楽しい絵付けの小さな器

美しいろうけつ染めの下駄

幻想の森の一輪差し

遊び心と暖かな眼差しに溢れたもの

4人の作家の、こどもと、こどもだった大人に楽しんでもらいたいこどものもの展。

泉 理恵

ヒロロ工房 石川 覚子



HARE-ya 翠川 祥子

山田 春美



泉 理恵 [bio](#)



HARE-ya 翠川 祥子 [web](#)



山田 春美 [bio](#)





ヒロロ工房 石川 覚子 [blog](#)

自由奔放な発想とユーモア性、子どもへ投げかける優しみの眼差しと母性を併せ持つ、陶フォルムの泉理恵。

意匠の切り込みと貼り合せが大変粋で洒脱な、ろうけつ染めの下駄や産着・手ぬぐいの HARE-ya 翠川 祥子。

「散歩の収穫物」「影をまつフクロウ」「泡をせおう牛」「音を食べる猫」「夏の匂いをさがす馬」、湧き出る幻想は計り知れないガラスの山田春美。

ちっちゃくて細やかでゆらゆらしていて、ほのぼのとしてぷちゅっぷちゅっとした絵ものがたりをたくさん散りばめた、こどものものの器のヒロロ工房 石川覚子。

抽象のフォルムと具象化する絵紋様、二つのパターンは二人ずつの作家に分かれる。

江戸紋様の現代化(翠川)と身近なもののカワイイ化(石川)、膨らみとしぼりの揺らぎ化(泉)と極点観察からの幻想化(山田)。

クリエイトする眼差しと心意気はそれぞれであっても、四人に共通するのは女性のおやかな掌から紡ぎ出された、子供達への想いの結晶。

この先、女性が日本のクリエーションを継承し変容させていく様相が、この展示会をご覧になれば、それこそ手に取るように分かります。

日本の働き尽くめのサラリーマン諸氏にも、女子供のものなどと無粋なことを云わず、「見て 持って 感じて ...」もらいたい、こどものもの展。

7月お盆のある日のこと



「この背中にしょったあ獅子があ、見えねえーかーッ」



と、Hare_ya の阿吽の産着を引っ掛けて、「こいつが阿で、わっちが吽だぁー」と見得をきる一歳男児。（実際の阿吽の吽の産着は、アメリカ人のパパが二歳の男の子に買っていかれました。これで日米こども連の阿吽が成立です。）